Think threads with YAMAWA

困ったときの知恵袋

No.028

【相談】

親会社より、ＳＰ　Ｍ１６ｘ２　で、「いちりんぶと」 のタップを使用するように、との指示がありました。
このタップは、どのようなタップですか？

【回答】

「いちりんぶと」は、「一厘太」と書きますが、慣習語になるんだ。
答えとしては、約０．３mmオーバサイズのスパイラルタップということになるね。

【説明】

ここでいう ”厘” は、尺貫法における長さの単位で、一厘は １／１００ 寸にあたります。
一寸は３０．３（mm）ですので、一厘 ＝ ３０．３（mm）÷ １００ ＝ 約０．３０３mm となります。
従って、一厘太のタップとは、標準等級のタップより約０．３mm大きいものということです。
※同様に、二厘太（にりんぶと）の場合は、約０．３０３×２ ＝ 約０．６ mm大きいものとなります。
亜鉛めっき用ハイブリッドバリュースパイラルタップ（HVSP ZP）には＋０．３のタップがあります。

当該商品のリーフレット

【参考】
+0.3mmオーバサイズのタップの選定

【参考】
めっき厚とオーバサイズ量

一般的には、「何厘太」までのタップが使われているのかな？
また、どんな業界で使われているのかな？

尺・寸・分・厘　は、日本で昔使われていた尺貫法の計量の単位だよ。

一般的には、「一厘太」や「二厘太」までが、よく使われていると思います。
ねじ加工後に厚いメッキを施して使用するねじ部品を加工する際に、このようなオーバ量が大きいタップが利用されます。
厚いメッキを施すことを「ドブンと漬けて”めっき”をかける工程」より、「どぶ漬けめっき」と呼ばれることがあります。
このようなタップは、　建設，橋梁，造船関連の業界で、多く使用されています。